

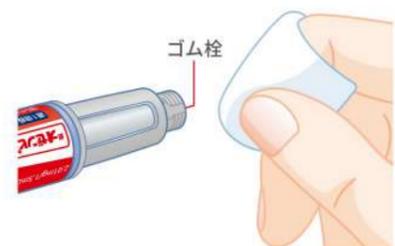
オゼンピック®皮下注2mgを正しく使うために

使い方動画



注射針の取り付け 手指を石けんでよく洗ってください。

1 オゼンピック®のキャップをはずし、ゴム栓をアルコール綿で拭きます。

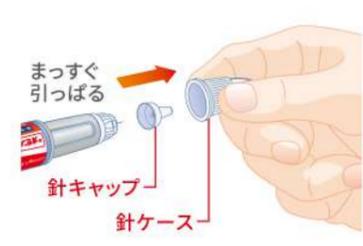


2 注射針をゴム栓にまっすぐ奥まで刺し、止まるまで回します。

注射針の保護シールをはがしたら、後針が曲がっているなどの異常がないか、確認します。



3 「針ケース」と「針キャップ」をまっすぐ引っぱってはずします。



新しいペンを使用する場合

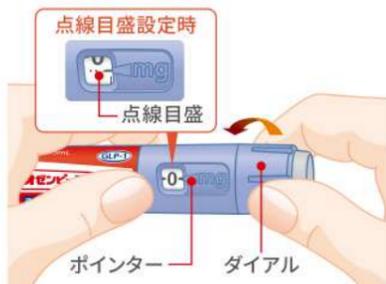
ペンの使用が2回目以降の場合

新しいペンを使用する前に

動作確認

2回目以降は動作確認は不要です。

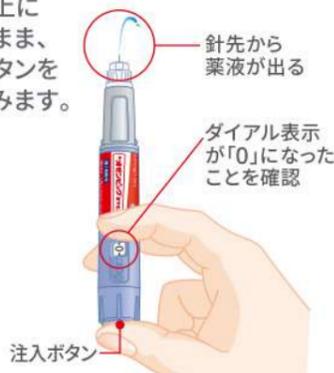
a ダイヤル表示が「0」であることを確認したうえで、ダイヤルを「点線目盛(0のすぐ後)」に設定します。



b カートリッジ内の気泡を上部に集めます。



c 針先を上に向けたまま、注入ボタンを押し込みます。



投与量の設定

4 ダイヤル表示が「0」になっていることを確認のうえ、ダイヤルを回して、指示された量(0.25mg、0.5mg、1.0mgのいずれか)をポインターに合わせます。



注射

5 注射部位を消毒し、注射針を皮膚の面に対して、まっすぐに根元まで刺してください。



6 「カチッ」と音がするまで注入ボタンを真上から押してください。



7 完全に薬液を注入するため、注入ボタンを押した状態で、6秒以上注射針を刺したままにしてください。

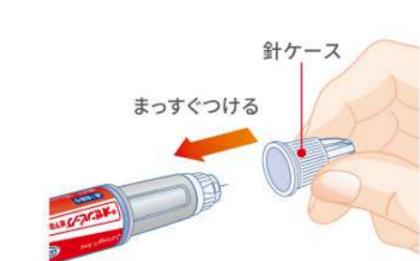


8 注入ボタンを押したまま注射針を抜いてください。



注射が終わったら 注射後は必ず直ちに注射針をはずしてください。

9 注射針に「針ケース」をまっすぐつけ、針ケースごと回します。



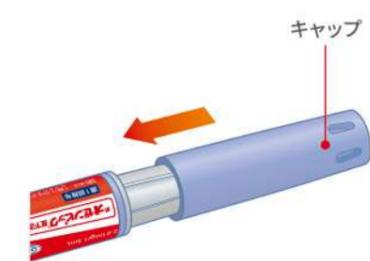
10 まっすぐ引っぱって注射針をはずします。



11 ペンにキャップをつけます。



11 ペンにキャップをつけます。



オゼンピック®の投与量

投与のタイミングは毎週行っている活動や習慣などと組み合わせ、忘れずに投与できるようにしましょう。



※医師の指示のもと行ってください

オゼンピックの使用済みの針は医療廃棄物なので、自宅で廃棄してはいけません。必ず医療機関に持ち込み廃棄処理してください。

注射を忘れてしまった場合

次の投与予定日まで2日(48時間)以上の場合

気づいた時点で直ちに1回分を投与し、その後はあらかじめ決められた曜日に投与してください。

例)月曜日が投与日の場合



次の投与予定日まで2日(48時間)未満の場合

忘れた分は投与せず、次の投与予定日に1回分を投与してください。

打ち忘れた分を取り戻すために、2回分を一度に投与するのは危険です。

保管方法

未使用の場合

冷蔵庫で保管してください。

❗ 冷蔵庫で保管する場合の注意

- 凍結させないようにしてください。フリーザーの中や冷蔵庫内の冷風が直接あたるような場所には置かないでください。
- 一度凍ったオゼンピック®は使用しないでください。
- 冷蔵庫内に食べ物などは区別して清潔に保管してください。

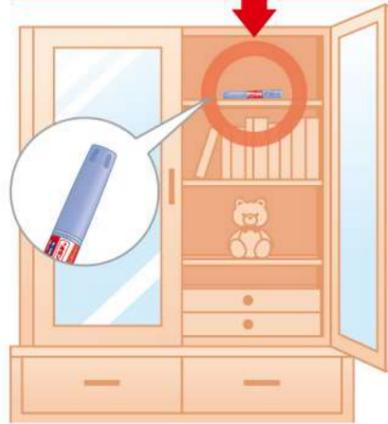


使用中の場合

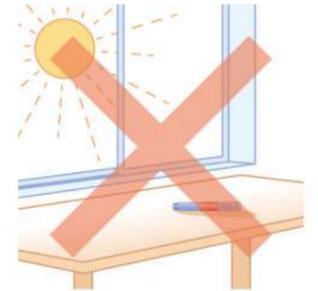
室温(30℃以下)または冷蔵庫で保管してください。

- 使用開始後8週間以内に使用してください。

保管するときは必ず注射針をはずし、ペンのキャップをつけてください。



- オゼンピック®や注射針などは、お子様などの手の届かないところに保管してください。
- 次のような場所は避けてください。
 - ほこりやゴミが付着しやすい場所
 - 汚れやすい場所
 - 水のかかりやすい場所
 - 直射日光のあたる場所(窓辺など)
 - 極端に高温または低温になる場所(自動車内など)



外箱及び本体のラベルに表示してある使用期限を過ぎたものは使用しないでください。

お手入れ

- 汚れは、中性洗剤を含ませたやわらかい布で拭き取ってください。
- ほこりやゴミは、やわらかいブラシで払った後、やわらかい布で軽く拭いてください。



- 直接水で洗わないでください。万一、水などがかった場合は、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。
- 油をさしたりしないでください。

主な副作用

< 消化器症状 >

吐き気



下痢・便秘



数週間で治まることもありますが、気になる症状があらわれたら、ご相談ください

< 消化器症状 >

手足のふるえ



冷や汗が出る



血の気が引く



疲れやすい



低血糖の症状を感じたら、すぐにご相談ください

他のGLP-1注射やインスリン注射を使用している方、妊娠中・授乳中の方、膵炎や胃腸障害の症状・既往歴がある方、過度のアルコール摂取や副腎機能不全など低血糖の恐れがある方は、オゼンピックを処方できません。